

大豆管理情報 第4号

大豆は順調に生育しており、開花期は7月16～22日頃（単作）でした。今年の夏は高温が予想されていますので、病害虫防除、畦間かん水の実施等適切な管理を徹底しましょう。

1. 病害虫防除 基本防除は適期に2回確実にいきましょう!

○播種時期によって生育が異なりますので、莢の大きさを確認して防除しましょう。

【基本防除】

	防除時期（目安）	剤型	対象病害虫	薬剤名	10aあたり 使用量		希釈 倍数	総使用 回数	収穫前 日数
1 回 目	莢の伸長初期 8月上旬 (単作8月3日頃)	粉剤	紫斑病 カメムシ類 マメシクイガ	スミチオンベルク ート粉剤DL	3 kg		-	4回 以内	21日 前まで
		液剤	紫斑病	ベルクード フロアブル	150 ml	水 150 ℓ	1000	4回 以内	7日 前まで
			アブラムシ類 カメムシ類 フタスジヒメムシ マメシクイガ	ダントツ フロアブル	60 ml		2,500	3回 以内	
2 回 目	子実肥大初期 8月中旬 (1回目から10日後頃)	粉剤	紫斑病 マメシクイガ カメムシ類	Zボルドートレ ボン粉剤DL	3～4 kg		-	2回 以内	14日 前まで
		液剤	紫斑病 カメムシ類	アミスタートレボ ンSE	150 ml	水 150 ℓ	1,000	2回 以内	14日 前まで

【随時防除】

○ウコンノメイガ(葉巻):

6枚葉巻した株がほ場内に連続して20本以上ある場合は、次のいずれかの薬剤で速やかに防除しましょう。

薬剤:サイアノックス粉剤またはブレバソフフロアブル5

○ハダニ類:7月下旬にハダニ類による葉の黄化が見られたら、発生状況に応じてマラソン乳剤で防除しましょう。

○葉焼病:

発生が見られたら速やかにZボルドーや撒粉ボルドー粉剤DL等で防除しましょう。

※散布量等は大豆栽培こよみを参照してください



葉焼病

2. 青立ち防止のための畦間かん水とカメムシ防除

○収穫期に発生する青立ちは、大豆の生育に対して莢が少ないと発生します。
莢が少なくなる主な原因は、土壌の乾燥とカメムシによる食害です。

対策1：畦間かん水の実施

- ① 9月上旬頃まで、3日以上晴天が続き、土壌が白く乾いたら、畦間かん水を実施しましょう。
- ② かん水は短時間で実施し、ほ場全体に水が行き渡ったら水口を止めて、速やかに排水しましょう。

対策2：カメムシの防除

- ① 基本防除を終了した後、ほ場内でカメムシが見られた場合は追加防除を行きましょう。
(防除の可否や防除時期、薬剤等は営農指導員等にご相談願います。)

3. 排水対策 溝と排水口の連結を徹底し、水を停滞させない！

○降雨後の排水や畦間かん水時の入排水をスムーズにするため、培土でできた溝と額縁排水溝の連結や、排水口の掘り下げを確実に行いましょう。

4. 雑草防除 大豆にかからないように注意！

○大豆ほ場にヒエやタデ等の雑草が残っている場合は、以下の除草剤を活用しましょう。

【散布にあたっては、吊り下げノズルが必要です】

薬剤名	適用雑草	使用時期	10aあたり 使用量	総使用 回数	使用 方法
バスタ液剤	1年生 雑草	大豆本葉5葉期以降 雑草生育期 但し、収穫28日前まで (8月末頃まで)	300~500ml (水 100~150L)	3回 以内	畦間・株間処理
ザクサ液剤	1年生 雑草	雑草生育期 但し、収穫28日前まで (8月末頃まで)	300~500ml (水 100~150L)	3回 以内	畦間処理
ラウンドアップ マックスロード	1年生 雑草	雑草生育期 但し、収穫前日まで	200~500ml (水 50~100L)	2回 以内	畦間処理

【難防除雑草】 — 外から入れない、増やさない、外に出さない —

○近年、帰化アサガオ類、イヌホオズキ類、ヒユ類等の発生が問題となっています。
これらの雑草は、早期発見に努め、雑草が実を結ぶ前に防除(手取り、バスタ液剤やザクサ液剤等による除草剤散布)を徹底しましょう。